

許せない 自民・公明の与党が参院憲法特別委員会で改憲手続き法案を採決強行

日本共産党

国民投票法案



九条改憲と地続きの改憲手続き法案（国民投票法案）が5月11日、参院憲法特別委員会で、自民・公明の与党の賛成で採決強行されました。

与野党の参考人や公述人からも「審議をつくされていない」などと声があがるなか、中央公聴会も開かず、ゴリ押しするやり方は絶対に許せません。採決に応じた民主党の責任も重大です。

日本共産党は、九条を改悪し日本を「海外で戦争をする国」づくりをねらう改憲派のたくらみと正面から対決し、憲法をまもりぬくためにがんばります。

採決強行は「わが国憲政史上に重大な禍根」
仁比聡平参議院議員が首相を糾弾
首相の「任期中の改憲」——中心は9条

2011年には新憲法公布——自民改憲スケジュール

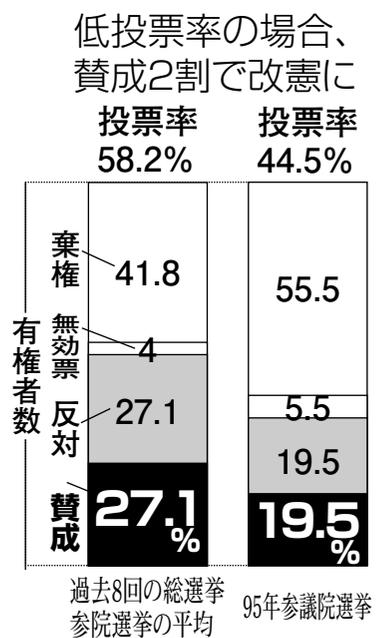
日本共産党を代表して
 仁比議員が質問。
 仁比氏は、「自民党の新憲法草案の中心は9条2項の削除」で、「（首相がいう）任期中の改憲の心臓部が9条であることは明らか」と指摘。

さらに、仁比氏は「国民投票実施までの経過と見通し」という自民党内で配られた文書を示し、早ければ2011年秋には新憲法の公布とあり、「改憲スケジュールそのもの。このスケジュールに合わせました。」

と、審議を打ち切り採決させようとしてきたのは明らか」と追及しました。時おり笑顔で、まともに答弁しない安倍首相に、仁比氏は「法案を強行し、『二度と戦争はしない』と国民の深い思いが込められた9条を変えて、ふたたび戦争ができる国にすることは許せない」と糾弾しました。

改憲と地続きであるのは明らか

——仁比氏が反対討論



仁比氏は反対討論にたち、国民投票法案が「有権者二割や二割台の賛成で改憲案がとおり、それを防ぐ最低投票率の定めがない」ことや、「公務員・教員の運動の規制」、「改憲案の広報や広告が改憲推進勢力に有利であること」など、改憲と地続きの法案であることを指摘。採決強行の暴挙に抗議しました。

参院選で「改憲派」にノーの審判を



元衆議院議員
 参院比例中国・四国・九州・沖縄
春名なおあき

9条改憲につながる国民投票法案の採決強行は許せません。改憲を許すかどうかはこれからのたたかいが大事です。来る参院選で、自民・公明の改憲派と法案可決に合意した民主へ、怒りの審判をくだしましょう。私はその先頭にたつてたたかいぬきます。